

みんなで広げる「木育」活動の推進を目指して

～「木とふれあい、木に学び、木と生きる」～

宮城県仙台地方振興事務所林業振興部 技術主幹 早坂 百合子

1 はじめに

宮城県仙台都市圏は「杜の都」仙台市を含み、森林公園や「定禅寺通り」のような象徴的な名所、「学都」大学キャンパス林にも多くの「木」が茂り、「森」や「木」を身近に感じることができる地域となっています。

また、「百万都市圏」玄関口の駅ビルや空港、大型商業施設など、人が集まる場所や、幼稚園舎、会社社屋などの身近な場所にも「木」を使った取り組みが広がっています。

平成30年4月1日施行された「みやぎ森と緑の県民条例」基本計画に基づき、身近な森林や木材利用を通じた「木育」活動により、地域に根ざした森林環境教育の推進を目指しました。



定禅寺通り（宮城県仙台市）

2 取組・研究方法

「杜の都」「学都」「百万都市圏」といった地域の特徴を生かしながら、「みんなで広げる「木育」活動推進事業（みやぎ環境税事業）」等を活用しながら、「多様な関係社が連携・協力し、木材の良さやその利用の意義を学ぶ、教育活動」である「木育」活動の「誕生」と「成長」を試みました。

（1）木作品展示会＋木工教室

毎年開催される、みやぎ児童「木工工作」コンクールの予選会も兼ねて、木作品の展示会を、「杜の都」仙台市内の森林公園で夏休み明けに行っています。

仙台市より会場の提供を受けるとともに、小学生が森林公園などから拾ってきたと思われる、木の実や枝、葉っぱを使った作品が目立つ展示会となっており、木材の良さやその利用意義を学ぶ教育活動の場として、地域に根付いた活動となっています。



木作品展示会（宮城県仙台市）

令和4年度は、宮城南部流域森林・林業活性化センター仙台支部、林業研究グループと県が協力し、「子供達が身近に楽しく木に触れる」をテーマとした木工教室を企画しました。



木製貯金箱



木工教室

令和4年9月10日、県産木材を使った木製貯金箱作り教室を開催し、親子13組で18個の県産材を使った木製貯金箱を製作しました。

「木材や釘を使う大変良い経験となった。」との言葉を多くもらい、小学校低学年の子供が、30分程度の時間で、楽しく木に触れるイベントとなりました。

(2) 森林講座+セミナー+森林整備

学都である宮城県仙台都市圏には、キャンパス林を有する大学があります。

令和3年度、大学研究室よりお声がけいただき、林業普及指導員が森林講座をスタートさせました。

大学研究室の皆さんとキャンパス林（60年生スギ）を歩いてまわり、森林整備をするにあたっての法制度や間伐の基礎知識について学びました。

キャンパス林という大学生にとって身近な森林に目を向けていただくことができました。

令和4年度は、活動の広がりを目指しました。

令和4年7月12日、地域資源を活用した「ふるさと」づくりを目指したセミナーを開催し、林業団体の皆さんとも地域資源の活用について意見交換を行いました。

また、9月29日、林業研究グループの協力もいただきながら、キャンパス林の間伐を行いました。伐採届から始まり、間伐作業は、学生の皆さんを中心として、合計3回行われました。

そして、10月27日、建築中の県産木材社屋を見学しました。大学生の皆さんが森林整備に加え、「木の活用」についても目をむけるきっかけづくりとなり、キャンパス林間伐木の活用途について考えることになりました。

大学生が中心となって、キャンパス林について考えていく、先進的な木育活動の誕生となりました。

令和5年2月21日には、「キャンパスから考える森林再生とカーボンニュートラ



キャンパス林



キャンパス林



木造社屋見学会

ル」シンポジウムを開催し、全国のキャンパス林を有する大学の取組み事例について、情報収集や意見交換を行うとともに、大学生が自主的にキャンパス林を整備した活動についても発表する場も設けることができました。

(3) 森林観察会＋林業見学会



県産材の良さ体感ツアー

宮城県仙台都市圏では、木造施設の建築や木質内装化の取組みが広がっており、令和3年度に、木造施設設計団体と木材の良さやその利用意義を学ぶ場として「県産材の良さ体感ツアー」を企画しました。

手入れの行き届いた森林を観察したほか、木の伐採の様子も見学し、森林の持つ公益的機能について理解を深めることができました。

令和4年度は活動の広がりを目指しました。



木造社屋の見学（建築中）

宮城県産木材を用いた木造新社屋を建設している会社に協力をいただき、令和4年11月17日、宮城県仙台都市圏内で建築学を学ぶ高校生の皆さんと、森林観察会に加え、建築中の木造社屋の見学をしました。

また、令和5年2月20日は、完成した木造社屋を見学し、構造材に用いたCLTや木質内装のデザイン性、DLTを使ったベンチや木製家具のさわり心地などを体感することができました。



木造社屋の見学（完成）

宮城県産木材を用いた木造建築のZEBによるカーボンニュートラルを目指し、木材とエネルギーの地産地消について理解を深めながら、木材利用とSDGsの関わりについて意識することができました。

木材の良さに加え、かけがえのない地球環境に目を向けてもらうきっかけを作ることができました。

3 結果

「杜の都」森林公園の会場で夏休み明けの恒例行事であった「木工工作展示会仙台」開催に併せ、親子を対象に県産木材を使った木製貯金箱作りを行い、身近に楽しく木に触れる機会を設けました。今後とも子供達に木に触れて喜んでもらう活動を続けていく中で木育活動の成長も目指していきたいと思えます。

「学都」での大学森林講座に併せ、大学生と一緒にキャンパス林の間伐を行ったほか、木造社屋の見学会などを通して、木材の良さやその利用の意義を学ぶ場を設けました。これから社会で活躍する大学生に、自主的に森林に関わっていただけるような活動を続ける中

で木育活動の成長も目指していきたいと思います。

「百万都市圏」での森林観察会に併せ、建築学を学ぶ高校生を対象に製材所や木造社屋の見学を行い、木材の特徴や地域材を使うことの大切さについて共感する場を設けました。将来建築に関わる高校生に、木を伐って、使うことについて知ってもらえるような活動を続ける中で木育活動の成長も目指していきたいと思います。

多種多様な関係者の皆さんと、「木育」活動を「誕生」させるとともに、「産学官民」で連携し「木育」活動の「成長」を実現することができました。

これからも、多種多様な関係者の皆様に魅力を感じていただけるような、木育活動の企画を行うとともに、活動の輪を広げていきたいと思っています。



4 考察・結論

「杜の都」で幼少期から森に触れる子供や、「学都」で学業に励む学生や教職員、「百万都市圏」として木造建築関わる人たちと一緒に、身近な森林や木材利用に目を向け、地域や生活に根付いた森林環境教育のきっかけづくりを設けることができました。

地域の特性を生かしながら、多くの世代の人達が森林に目を向けてもらえるよう、今後とも続けていきます。

かけがえのない森林資源を未来へつなげていくきっかけづくりを、みんなで広げていくものとして、今後ともたくさんの人達と支え合いながら「木育」活動を広めていくこととします。